

各科共通科目  
【令和7年度版】



### 訓練支援計画書（シラバス）

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	キャリア形成概論	必修	4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	人文科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
各科担任・キャリア支援担当者			各科教室			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
どの業界・仕事においても生涯を通じた就業力として必要な知識						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
学生自身が主体性を持って自分自身の能力や特性にあわせたキャリア形成を行うことの必要性や、グローバル社会におけるキャリア形成の考え方について、課題等を通じて習得する。	①	キャリア形成の概要について知っている。				
	②	エンployアビリティの概要について知っている。				
	③	キャリアプランの概要について知っている。				
	④	キャリア形成の6ステップについて知っている。				
	⑤	ジョブ・カードの作成について知っている。				
	⑥	キャリアプランの事例について知っている。				
	⑦	ロジカルライティングの概要について知っている。				
	⑧	コミュニケーション技術について知っている。				
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言（例）	
予備知識、技能・技術	特に必要ありません。
受講に向けた助言	「終身雇用」「年功序列」といった日本特有の雇用慣行が失われていく中、これから就職活動を行い自分の適性に合った就職先を選択していくために、今後の自分の方向性を考えていくことは大切です。これからのキャリア（人生）を考えていくためのスタートとなる授業科目になります。自分で学習することはもちろん、わからないことはどんどん質問し、しっかり身につけましょう。
教科書および参考書	テキスト： 自作テキスト 参考書： ○○○○（□□出版）
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">キャリア形成概論</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">職業社会概論</div> </div>

評価の割合（例）								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		100					
授業内容の理解度		100						
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力・推論能力								
取り組む姿勢・意欲								
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. キャリア形成 (1) キャリア形成とは 2. エンプロイアビリティ (1) グローバル時代のエンプロイアビリティ ① 企業に求められる人材とは ② 仕事の変化に対応できる能力 ③ 前へ踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力	講義	キャリア形成とエンプロイアビリティについて復習をしてください。
2週	3. キャリアプランニング (1) キャリアプランの概要 (2) キャリア形成の6ステップ ① 自己理解 ② 仕事理解 ③ 啓発的経験 ④ キャリア選択に係る意思決定 ⑤ 方策の実行 ⑥ 仕事への適応 (3) キャリアプランの作成 グローバル時代に求められるキャリア形成プラン	講義	キャリアプランニングについて復習をしてください。
3週	(4) ジョブ・カードの作成 ① ジョブ・カードとは ② ジョブ・カードの作成 4. ケーススタディ (1) キャリアプランの事例研究	講義	ジョブ・カードの作成について復習をしてください。
4週	(1) キャリアプランの事例研究	講義	キャリアプランの事例について復習をしてください。
5週	(1) キャリアプランの事例研究 5. 論理的思考 (1) ロジカルライティング ① 論理的文章の読み方	講義	論理的文章の読み方について復習をしてください。
6週	② 論理的文章の組立て方	講義	論理的文章の組立て方について復習をしてください。
7週	③ 論理的文章の書き方	講義	論理的文章の書き方について復習をしてください。
8週	6. コミュニケーション技術 (1) 「書く」コミュニケーション技術	講義	「書く」コミュニケーション技術について復習をしてください。
9週	(1) 「書く」コミュニケーション技術 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

## 訓練支援計画書（シラバス）

科名：生産機械技術科・電気エネルギー制御科

授業科目の区分		授業科目名		必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	ビジネスコミュニケーション		生産技術科・電気エネルギー制御科のみ必須	4期	1	2
教科の区分	一般教育科目						
教科の科目	人文科学						
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考		
赤松・高橋		火	A306・307				
授業科目に対応する業界・仕事・技術							
すべての業界で最低限必要なビジネスにおけるコミュニケーション力と社会人基礎力(「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」「チームで働く力(チームワーク)」)を習得する。							
授業科目の訓練目標							
授業科目の目標	No	授業科目のポイント					
身につけておくべき重要なコミュニケーション能力、自らの意思や意見を他者に伝える能力、他者の意思や意見を聴く能力の向上を目指し、社会人として必要な能力を身につける。 また、学生一人ひとりのキャリア形成に対する意識・意欲を喚起し、キャリア形成を前向きに捉えるための動機付け。	①	オリエンテーション。就職活動の流れを知る。企業がもとめる人間性、コミュニケーションの重要性を理解する。					
	②	面接にふさわしい身だしなみとは。面接とは。					
	③	面接の目的を知る。求められている人材と自分のギャップを知る。自己分析。					
	④	自己PRに必要なコミュニケーション力。					
	⑤	ビジネスで必要な表現力を取得する					
	⑥	面接へ向けての必要な準備について知る					
	⑦	ビジネスでの電話応対を知る(企業にアポイントを取るに)					
	⑧	自己PR文を作成。テスト					
	⑨	面接応対マスター。社会人になるにあたっての決意表明。					
	⑩						

授業科目受講に向けた助言	
予備知識、技能・技術	キャリア形成概論の実践編になります。1年生のテキストをよく復習しておいてください。
受講に向けた助言	コミュニケーション力は「わかる」ではなく、「できる」ようになることが重要です。面接ではコミュニケーション能力も合否を分ける大きな要因です。何度もロールプレイングを行うことで、ビジネスパーソンとしての実践力を身につけ、面接を突破できるようにしましょう。
教科書および参考書	面接対策&ビジネスマナー（ウイネット）
授業科目の発展性	社会人に必要な【社会人基礎力】の向上と自らのコンピテンシーの発見

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
評価割合	授業内容の理解度	10		10				
	技能・技術の習得度	10	20					
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力		10					
	論理的な思考力・推論能力			20				
	取り組む姿勢・意欲					20		
	主体性・協調性							

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	1. ガイダンス (1)シラバスの提示と説明 2. 第一印象の重要性	講義・ディスカッション・ロープレ	就職活動の流れを確認します。 他人に与える自分の印象について考えます。 ビデオ撮影し、自分の印象を客観的に見ることにより、キャラクターを知ります。
2週	1. 第一印象の要素 (1)身だしなみチェック (2)基本動作	講義・ディスカッション・ロープレ	前回の復習。 第一印象を強化し、社会人偏差値をつけます。 与えられた課題を時間内に提出してください。
3週	1. 面接の目的 (1)面接の目的について知る (2)自分の取材を通して自らを知る(自己分析の元となる素材集め)	講義・ディスカッション・ロープレ	前回の復習。 社会が求めている人材像を理解します。 自己分析をして、自分取材し、求められている人材像と自分のギャップを確認します。
4週	1. ビジネスに必要なコミュニケーション 2. 自己PR文の整理 (1)自己分析結果の整理 3. 志望動機の作成 (1)志望動機とは何か	講義・ディスカッション・ロープレ	前回の復習。 自己分析の整理をし、自己PRに使用する内容の選定と肉付けを行います。 自己分析結果を元に志望動機を作成します。 与えられた課題を時間内に提出してください。 (完成できなかった分は宿題)
5週	1. 面接セミナー (1)面接トレーニングビデオを見る ・志望動機、自己PR、集団面接など (2)面接に向けての自分の課題、準備を知る。	講義・ディスカッション・ロープレ	前回の復習。 面接トレーニングビデオを見、自分に置き換えて、対策方法を考えます。 面接に向けての自分の課題を理解します。
6週	1. 敬語 (1)正しい敬語の使い方を知る (2)話の仕方と聞き方	講義・ディスカッション・ロープレ	前回の復習。 伝えやすい敬語についての知り、正しい言葉遣いを身につけます。 与えられた課題を時間内に提出してください。
7週	1. 電話でのコミュニケーション (1)電話対応の基礎知識 (2)かけ方と受け方、取次ぎの仕方	講義・ディスカッション・ロープレ	前回の復習。 コミュニケーションツールの使い分けについて考えておきましょう。 与えられた課題を時間内に提出してください。
8週	1. 自己PR文の完成 (1)自己PRの整理 2. 面接ロープレテスト	講義・ディスカッション・ロープレ	前回の復習。 自己分析結果より自己PR文完成を目指します。 面接ロープレのテストを行います。 与えられた課題を時間内に提出してください。
9週	1. 面接について (1)面接の準備(実録) 2. ビジネスコミュニケーション総括 (1)決意表明	講義	前回の復習。 ビジネスコミュニケーション最後の授業です。 前回までに行った内容を見直しておいてください。 社会人に向けての決意表明を行います。

### 訓練支援計画書（シラバス）

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	職業社会概論	必修	1・2期	2	1
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	社会科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
龍田・高橋		火	A302/402			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
就職・就業するための仕事理解 どの業界・仕事においても必要なビジネスマナー						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
生涯を通じて、仕事に就くことの意味と仕事に取り組む姿勢を考え、社会的通念、技術者倫理および諸外国の文化について理解し、社会人として必要になるスキルや就職等に必要となる素養についての知識を習得する。	①	「働く」意味について知っている。				
	②	社会のルールについて知っている。				
	③	技術者倫理について知っている。				
	④	ビジネスマナーについて知っている。				
	⑤	コミュニケーション技術について知っている。				
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言（例）	
予備知識、技能・技術	一般教育科目「キャリア形成概論」で学んだ内容を見直しておくことをお勧めします。
受講に向けた助言	業界・業種を問わず社会人として就職・就業していくために必要な素養を身につける科目になります。わからないことは質問し、就職時に役立てるように学習することを期待します。
教科書および参考書	テキスト： 自作テキスト 参考書： ○○○○○（□□出版）
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">キャリア形成概論</div> <div style="font-size: 20px;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">職業社会概論</div> </div>

評価の割合（例）								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		80					
授業内容の理解度		50						
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力		10						
プレゼンテーション能力		10						
論理的な思考力・推論能力								
取り組む姿勢・意欲		10						
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 「働く」意味 (1) 「働く」という意味 (2) 「自己実現」という意味 2. 社会のルール (1) 社会の動向	講義	「働く」意味について復習をしてください。
2週	(2) ノーマライゼーション (3) 労働者の動向 (4) 職業社会における社会的通念	講義	社会のルールについて復習をしてください。
3週	(5) 社会人に求められるビジネススキル (6) 分業と労働生産性 (7) グローバル社会の現実（修了生の講話）	講義	社会のルールについて復習をしてください。
4週	(8) 最新の技術革新における社会動向（DX、GX等）	講義	DX（デジタルトランスフォーメーション）、GX（グリーントランスフォーメーション）等の概要について復習をしてください
5週	3. 技術者倫理 (1) 技術者倫理とは (2) 技術者の役割と責任	講義	技術者倫理について復習をしてください。
6週	(2) 技術者の役割と責任 4. ビジネスマナー (1) 商慣行と社会的常識（日本と諸外国）	講義	技術者倫理について復習をしてください。
7週	(2) 日本におけるビジネスマナー (3) 諸外国への理解 ① 諸外国の習慣 ② 諸外国の経済状況 ③ 諸外国で絶対にしてはいけない事など	講義	ビジネスマナーについて復習をしてください。
8週	5. コミュニケーション技術 (1) 「話す」コミュニケーション技術 (2) 「聞く」コミュニケーション技術	講義	コミュニケーション技術について復習をしてください。
9週	(3) 「応答する」コミュニケーション技術 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

## 訓練支援計画書（シラバス）

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	数学	必修	1・2期	2	4
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
古川・中野		火	A303・401			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、専門領域において必要となる基礎的な数学及び計算法についての知識を習得する。	①	技術者に必要な数式と計算法の概要について知っている。				
	②	三角関数について知っている。				
	③	指数について知っている。				
	④	対数について知っている。				
	⑤	微分係数について知っている。				
	⑥	導関数について知っている。				
	⑦	不定積分について知っている。				
	⑧	定積分について知っている。				
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言（例）	
予備知識、技能・技術	高校で学んだ「数学」の知識を見直しておくことをお勧めします。
受講に向けた助言	高校の数学で三角関数や微分積分などを学び、計算の仕方やグラフの描き方などは理解してきたと思いますが、その数式や関数などが、どのような概念・原理に基づいているかについては、あまり把握してこなかったのではないかと思います。この授業科目では、これから実践技術者として活躍していくうえで必要な数学を原理から学んでいきますので、高校までの暗記型の学習ではなく、原理に基づいて勉強し、わからないことは質問していき、身につけていきましょう。
教科書および参考書	テキスト： 新課程チャート式 基礎と演習 数学 I+A
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-right: 5px;">数学</div> <div style="margin: 0 5px;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">数学演習</div> </div>

評価の割合（例）								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		70	15	15			
授業内容の理解度		80	15	5				
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力・推論能力								
取り組む姿勢・意欲					5			
主体性・協調性				5				

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法	講義	実用数学について復習をしてください。
2週	(1) 技術者に必要な数式と計算法	講義	実用数学について復習をしてください。
3週	2. 三角関数 (1) 三角比 (2) 正弦・余弦定理	講義	三角関数について復習をしてください。
4週	(3) 加法定理	講義	三角関数について復習をしてください。
5週	3. 指数・対数 (1) 指数関数 (2) 対数関数	講義	指数・対数について復習をしてください。
6週	(3) 自然対数と常用対数	講義	指数・対数について復習をしてください。
7週	4. 微分 (1) 微分係数	講義	微分について復習をしてください。
8週	(2) 導関数 5. 積分 (1) 不定積分	講義	微分・積分について復習をしてください。
9週	(2) 定積分 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

### 訓練支援計画書（シラバス）

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	物理	必修	1・2期	2	1
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
本田		火	A201			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、専門領域において必要となる基礎的な物理についての知識を習得する。	①	S I 単位と工学単位について知っている。				
	②	力の合成・分解について知っている。				
	③	平行力（偶力）について知っている。				
	④	力のモーメントについて知っている。				
	⑤	速度と加速度について知っている。				
	⑥	運動量と力積について知っている。				
	⑦	位置エネルギーと運動エネルギーについて知っている。				
	⑧	エネルギー保存則について知っている。				
	⑨	直流電流・電圧について知っている。				
	⑩	交流電流・電圧について知っている。				

授業科目受講に向けた助言（例）	
予備知識、技能・技術	高校で学んだ「物理」の知識を見直しておくことをお勧めします。
受講に向けた助言	物体の運動などの自然現象を数学的に記述する方法を学びます。その現象を表現するために、物理量単位などの概念を理解し、SI単位系や工学単位についても使いこなせるようになりましょう。
教科書および参考書	テキスト : 自作テキスト 参考書 : ○○○○○ (□□出版)
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">物理</div> <span style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">—</span> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">物理演習</div>

評価の割合（例）								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合	授業内容の理解度	80	20				
技能・技術の習得度		80	20					
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力・推論能力								
取り組む姿勢・意欲								
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 単位と基本定数 (1) SI単位 (2) 工学単位 2. 静力学 (1) 力の合成・分解	講義	単位と基本定数について復習をしてください。
2週	(2) 平行力 (偶力)	講義	静力学について復習をしてください。
3週	(3) 力のモーメント 3. 運動学 (1) 速度と加速度	講義	静力学について復習をしてください。
4週	(2) 運動量と力積	講義	運動学について復習をしてください。
5週	(3) 各種運動	講義	運動学について復習をしてください。
6週	4. 仕事とエネルギー (1) 仕事の定義 (2) 位置エネルギーと運動エネルギー	講義	位置エネルギーと運動エネルギーについて復習をしてください。
7週	(2) 位置エネルギーと運動エネルギー (3) エネルギー保存則	講義	位置エネルギーと運動エネルギーについて復習をしてください。
8週	(3) エネルギー保存則 5. 電磁気学 (1) 直流電流・電圧	講義	エネルギー保存則と電磁気学について復習をしてください。
9週	(2) 交流電流・電圧 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

### 訓練支援計画書（シラバス）

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	数学演習	必修	3期	2	1～2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
古川・中野						
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、専門領域において必要となる基礎的な数学及び計算法についての知識を習得する。	①	三角関数の計算法について知っている。				
	②	指数関数の計算法について知っている。				
	③	対数関数の計算法について知っている。				
	④	微分係数と導関数の計算法について知っている。				
	⑤	不定積分と定積分の計算法について知っている。				
	⑥	場合の数の計算法について知っている。				
	⑦	確率の計算法について知っている。				
	⑧	数列の計算法について知っている。				
	⑨	ベクトルと複素数の概要について知っている。				
	⑩					

授業科目受講に向けた助言（例）	
予備知識、技能・技術	一般教育科目「数学」で学んだ内容を見直しておくことをお勧めします。
受講に向けた助言	一般教育科目「数学」で、数学について概念や原理から学んだところですが、数学は最終的には計算になります。この授業科目で、実際に頭を使い手を動かして演習・復習を重ねることで確実に身につけるようにしてください。わからないことは質問をして、積み残しがないようにしましょう。
教科書および参考書	テキスト： 新課程チャート式 基礎と演習 数学II+B
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-right: 5px;">数学</div> <div style="margin: 0 5px;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; background-color: #cccccc;">数学演習</div> </div>

評価の割合（例）								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合	授業内容の理解度	80	20				
技能・技術の習得度		80	20					
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力・推論能力								
取り組む姿勢・意欲								
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法 2. 数学演習 (1) 三角関数 ① 三角比	講義	三角関数の計算法について復習をしてください。
2週	② 正弦・余弦定理 ③ 加法定理	講義	三角関数の計算法について復習をしてください。
3週	(2) 指数関数 ① 指数関数 ② 対数関数	講義	指数関数の計算法について復習をしてください。
4週	(3) 微分・積分 ① 微分係数と導関数	講義	微分係数と導関数の計算法について復習をしてください。
5週	② 不定積分と定積分	講義	不定積分と定積分の計算法について復習をしてください。
6週	(4) 場合の数と確率 ① 順列・組み合わせ ② 二項定理	講義	場合の数について復習をしてください。
7週	③ 確率の計算 ④ 期待値	講義	確率と期待値について復習をしてください。
8週	(5) 数列 ① 数列とその和 ② 色々な数列	講義	数列について復習をしてください。
9週	(6) ベクトルと複素数 ① 平面上のベクトル ② 直交座標 ③ 極座標 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

### 訓練支援計画書（シラバス）

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	工業英語	必修	3・4期	2	1
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
大山		火	A201			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
科学・技術に関する基本的な英文や簡単な英文マニュアル、生産工程に関する指示文書などを読解する基礎能力を習得する。併せて、科学技術分野の基本的な単語に習熟し、簡単な説明文などを作成する基礎能力を習得する。	①	工業英語の基本文法について知っている。				
	②	科学技術分野の英単語について知っている。				
	③	科学・技術に関する英文の文章の読み方について知っている。				
	④	英文のマニュアルの読み方について知っている。				
	⑤	生産工程に関する英文の指示文、注意事項の読み方について知っている。				
	⑥	生産現場の英文の掲示文、看板の読み方について知っている。				
	⑦	工業英語で使われる特殊な文法について知っている。				
	⑧	簡単な英文の説明書の書き方について知っている。				
	⑨	簡単な英文の操作指示文の書き方について知っている。				
	⑩					

授業科目受講に向けた助言（例）	
予備知識、技能・技術	一般教育科目「英語」で学んだ内容を見直しておくことをお勧めします。
受講に向けた助言	これからの社会はさらに国際化が進み、どの分野の技術者であっても更なる英語力が必要とされる時代となっています。この授業科目では、一般教育科目「英語」で身につけた英語力をもとにして、英語で書かれた専門技術資料を読む力、また、簡単な説明書や指示書を英文で書く力を養い、日常英語とは異なる工業英語の基礎を身につけます。苦手意識を捨てて積極的に学習して、就職時に役立つことを期待します。
教科書および参考書	テキスト : 自作テキスト 参考書 : ○○○○○ (□□出版)
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">英語</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">工業英語</div> </div>

評価の割合（例）								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
技能・技術の習得度		20		40				
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力				20				
論理的な思考力・推論能力				20				
取り組む姿勢・意欲								
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 工業英語の基礎 (1) 工業英語とは (2) 工業英語の基本文法	講義	工業英語の基本文法について復習をしてください。
2週	(3) 科学技術分野の英単語	講義	科学技術分野の英単語について復習をしてください。
3週	2. 英文を読む (1) 科学・技術に関する文章を読む (2) マニュアルを読む	講義	科学・技術に関する文章とマニュアルを読む復習をしてください。
4週	(3) 生産工程に関する指示文、注意事項を読む	講義	生産工程に関する指示文、注意事項を読む復習をしてください。
5週	(4) 生産現場の掲示文、看板を読む	講義	生産現場の掲示文、看板を読む復習をしてください。
6週	(5) 工業英語で使われる特殊な文法 3. 英文を書く (1) 簡単な説明書を書く	講義	工業英語で使われる特殊な文法について復習をしてください。
7週	(1) 簡単な説明書を書く	講義	簡単な説明書を書く復習をしてください。
8週	(2) 簡単な操作指示文を書く	講義	簡単な操作指示文を書く復習をしてください。
9週	(2) 簡単な操作指示文を書く 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

### 訓練支援計画書（シラバス）

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	英語	必修	1・2期	2	1
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
山崎		火	A301			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
日常英会話及びビジネス英会話ができる基礎能力を習得し、併せて英文読解の基礎能力を習得する。	①	日常英会話の一般的な表現について知っている。				
	②	ビジネス英会話における挨拶・自己紹介について知っている。				
	③	ビジネス英会話における電話対応について知っている。				
	④	ビジネス英会話における会社訪問について知っている。				
	⑤	工業英語における英文マニュアルの読解について知っている。				
	⑥	工業英語における英字新聞の読解について知っている。				
	⑦	工業英語におけるホームページの読解について知っている。				
	⑧					
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識、技能・技術	高校で学んだ「英語」の知識を見直しておくことをお勧めします。
受講に向けた助言	これからの社会はさらに国際化が進み、どの分野の技術者であっても更なる英語力が必要とされる時代となっています。この授業科目では、業界を問わず社会で必要とされる日常英会話並びにビジネス英会話の基礎を身につけ、英文による技術的文献の読解に必要な英語力の基礎を養うことを目的としています。基本の4技能（聞く、話す、読む、書く）の向上を意識しながら積極的に学び、就職時に役立つことを期待します。
教科書および参考書	テキスト： English Aid 基礎から学べる大学英文法総合演習
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">英語</div> <div style="font-size: 20px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">工業英語</div> </div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
評価割合		80	20					
	授業内容の理解度	40	10					
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力	20						
	プレゼンテーション能力	20						
	論理的な思考力・推論能力			10				
	取り組む姿勢・意欲							
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 日常英会話 (1) 日常表現	講義	日常英会話について復習をしてください。
2週	(2) 英会話で表現	講義	日常英会話について復習をしてください。
3週	(3) 各場面での英会話 2. ビジネス英会話 (1) ビジネス場面での英会話 ① 挨拶・自己紹介	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
4週	② 電話対応	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
5週	③ 会社訪問	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
6週	④ リスニング	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
7週	3. 英文読解 (1) 工業英語 ① 英文マニュアルの読解	講義	工業英語について復習をしてください。
8週	① 英文マニュアルの読解 ② 英字新聞・ホームページ読解	講義	工業英語の概要について復習をしてください。
9週	② 英字新聞・ホームページ読解 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

## 訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	保健体育	選択	1～3期	3	1
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	保健体育					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場	備考		
萬代・小田		木	運動場・体育館			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
自己の健康について認識を深めつつ、実践(スポーツ活動)を通して健康的なライフスタイルを維持するための方法を学ぶことは、仕事をする上で重要なことであるとする。						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No					
①現代社会における健康問題を理解し、健康的なライフスタイルを確立するために重要な運動・栄養・休養について考察する。また安全で合理的な運動を実践するために運動処方論について講義する。 ②実際に運動(スポーツ)を実践し、生涯を通じて行える運動を見つけ、運動の必要性を体験する。	①	運動に対する興味を深める。				
	②	個人の責任を果たし、かつ社会性を養う。				
	③	集団種目を実施し、協調性を養う。				
	④	種目のルールを守り、フェアプレー精神を養う。				
	⑤	生涯スポーツとしてのレクリエーション活動(ニュースポーツの体験)。				
	⑥	健康的なライフスタイルの確立。				
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識、技能・技術	特になし
受講に向けた助言	運動(スポーツ)を実践する中で、心と体の健康を維持できます。障害や外傷が起こらないように、準備体操をしっかりと行うようにしましょう。授業最後に本授業の振り返りアンケートを行い自己評価を行いましょう。
教科書および参考書	教科書および参考書は、特になし ただし、新しい種目などを実施する際には、実施方法やルールを記載したプリントを配布する。
授業科目の発展性	授業を通して経験したスポーツを自身の余暇活動に取り入れ、コミュニケーションツールとして積極的に身体活動を実施する。それは、生活習慣病などを未然に防ぐ対策となり、健康で生きがいを持ったライフスタイルの一助となる。

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	評価方法						合計
		試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	
評価割合		30					70	100
	授業内容の理解度	20					15	
	技能・技術の習得度						10	
	コミュニケーション能力						10	
	プレゼンテーション能力						5	
	論理的な思考力・推論能力						5	
	取り組む姿勢・意欲	10					15	
主体性・協調性						10		

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	オリエンテーション・体ほぐし・アイスブレイキング	座学・実技	体育の受講における注意事項の説明(出欠席・授業内容・準備物・成績評価・単位認定等)、体ほぐし運動。
2週	ラジオ体操第1、キンボール・テニス・フットサル・バスケット	実技	準備運動の重要性を理解させ、それぞれの競技種目における基礎的技術の確認と習得。運動を通じてコミュニケーション作り。
3週	ラジオ体操第1、キンボール・テニス・フットサル・バスケット	実技	準備運動の重要性を理解させ、それぞれの競技種目における基礎的技術の確認と習得。運動を通じてコミュニケーション作り。
4週	ラジオ体操第1、テニス・フットサル・バスケット	実技	基礎的技術を活用しゲームを責任もって実施する。
5週	ラジオ体操第1、テニス・フットサル・バスケット	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を發揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
6週	ラジオ体操第1、テニス・フットサル・バスケット	実技	基礎的技術を活用しゲームを責任もって実施する。
7週	ラジオ体操第1、テニス・フットサル・バスケット	実技	前回と比較して上達しているかを確認する。個人の課題点を理解し、技能上達に取り組む。
8週	ラジオ体操第1テスト、ターゲットバードゴルフ・バレーボール	実技	ラジオ体操評価と新しい種目の基礎的技術と習得。
9週	ターゲットバードゴルフ・バレーボール	実技	新しい種目に対してチャレンジする。その中で積極性を養う。
10週	ターゲットバードゴルフ・バレーボール	実技	基礎的ルールと技術を身につけゲームを責任もって実施する。
11週	ニュースポーツ・サッカー・フットボール	実技	基礎的ルールと技術を身につけゲームを責任もって実施する。
12週	ニュースポーツ・サッカー・フットボール	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を發揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
13週	健康の維持・増進についての講義	講義	生活習慣病と運動を考察。後半の授業内容を確認する。
14週	ニュースポーツ・サッカー・フットボール	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を發揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
15週	ニュースポーツ・サッカー・フットボール	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を發揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
16週	ニュースポーツ・アルティメット・ソフトバレーボール	実技	新しい種目に対してチャレンジする。その中で積極性を養う。
17週	ニュースポーツ・アルティメット・ソフトバレーボール	実技	基礎的ルールと技術を身につけゲームを責任もって実施する。
18週	ニュースポーツ・アルティメット・ソフトバレーボール	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を發揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
19週	ニュースポーツ・アルティメット・ソフトバレーボール	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を發揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
20週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
21週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
22週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
23週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
24週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
25週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
26週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
27週	授業評価点検および試験	講義	試験・授業評価と点検を実施する。